

心を決めて入試に臨もう！

茗溪塾塾長 長谷 誠基

2021 年が始まりました。新型コロナウイルスが猛威をふるっていますが、大学入学共通テストは予定通りに行われることが発表されましたので、その他の入試も基本的には予定通り行われると思います。この『教務便り』が届くころには、中学入試がスタートしているでしょう。続いて高校入試、大学入試もスタートし、最後は大学入試の国立後期まで 3 カ月に及ぶ長い戦いが続きます。ここからは嬉しい合格の知らせが届くこともあれば、残念ながら不合格の知らせを聞くこともあります。生徒たち全員に第 1 志望に合格してほしいと願っていても、いろいろな要因で合格に届かない生徒は存在します。その要因となりえるものを挙げていきたいと思えます。まず、受験勉強の苦しい現実から逃避したいために、終わった後の計画を立てはじめる生徒がいます。受験が終わったら、どこに遊びに行こう？どのゲームを買ってもらおう？など受験が終わってからの楽しいことばかり考えていて、勉強が手につかなくなります。ついつい少し気を和らげようとしてそういう話をしてしまう場合がありますが、これは危険なサインです。やはり一定の緊張感が受験には必要だということです。次に、直前期に優しい勉強ばかりやることです。受験前は自信をつける方が良いのは確かです。しかしすべてを優しいものばかりにしてしまえば、考える力を弱めてしまうことになります。塾の授業で少し難しめのものをあたえるのはそのバランスをとるためでもあります。家では基本的なもののチェックをやったり、志望校の過去問をやったりしていくとバランスが取れていいでしょう。3つ目は家庭内のムードです。家で少し気を緩めた様子を見ていると『もうすぐ受験でしょう？そんな態度で大丈夫なの？』などと言ってしまう、喧嘩が始まってしまうのではその後勉強は手につかないでしょう。逆に不安がっている子供と一緒に不安になり、暗いムードになってしまうのも良くありません。この時期は何事にも動じない態度でいて下さい。本当に大変だと思いますが、保護者の不安は子供に直接伝わってしまいます。気を緩めていたら、『じゃあ今から確認で 1 題だけやってみようか？』といって、できそうな問題を解かせ、できたらほめる。これでたいいの子はもう一問やってみようとなります。不安がっている子には『これだけやってきたんだから大丈夫！』と声掛けして同じような対応をしてあげると少し自信を取り戻したりします。そして最後は気持ちの勝負！今までも受験を最後までやりきった生徒が志望校への合格を手にかけています。入試中も塾は受験生を応援します。入試が終わったら塾に来てもらえれば気持ちの立て直しなどもできると思いますので、最後まで生徒・保護者・塾の協力体制を維持して頑張っていきましょう。